視　察　報　告　書

報告者氏名　笠原 久恵

1　委員会名
都市建設委員会

2　期　　日
令和５年１０月２５日（水）～１０月２７日（金）２泊３日

3　視察地及び調査事項
（１）岐阜県各務原市（１日目）
コミュニティバス等運行事業（チョイソコかかみがはら）
（２）愛知県豊田市（２日目）
公共空間の暫定活用「とよしば」
交通死亡事故ゼロの実現に向けた「ジコゼロ大作戦」
（３）岐阜県岐阜市（３日目）
リノベーションまちづくり事業

4　所感等
10／25各務原市　コミュニティバス等運行事業について
・各務原市は、岐阜県南部の愛知県との県境に位置し面積は、流山市のほぼ2.5倍の87.81㎢で人口は、平成5年10月1日現在で145,059人であります。今回、コミュニティバス等運行事業について視察いたしました。
当市には、平成12年からのふれあいバス、平成27年から令和4年にふれあいタクシー、令和2年からチョイソコかかみがはらがあり、暮らしの足について力を入れていると思いました。
ふれあいバスについては、市内7路線があり、1回の乗車につき、乗車100円と距離と関係なくワンコインで乗ることができます。始点から終点まで2時間かかるなど課題があり、コン

パクトな路線5地区に分けるなどトラブル発生を最小限にしました。市立地適正化計画と連動し、「移住を誘導すべき区域」へ車両を追加し、一部を1時間に1本とし路線のパターンダイヤ化を実施しました。

ふれあいタクシーは、運行エリア「須衛・各務」「鵜沼南」で行いました。1時間1便程度、1乗車300円（高齢者65歳以上は半額）で30分前までに電話またはwebで予約としました。しかし、ダイヤが分かりづらい、固定客が多く新規利用者が定着しづらい等課題が出て無料キャンペーンなどしたが、乗客が増えませんでした。

「チョイソコかかみがはら」は、ふれあいタクシーの課題解決のために実施。事前に会員登録（市外市民も可）をして20分前までに電話またはwebで予約をします。運行エリアは、「鵜沼南①」「鵜沼南②」「須衛・各務・八木山」の3地区1乗車400円から600円（高齢者65歳以上半額）。1自治会に1か所、公共施設に停留所の設置、公共交通機関と連結しています。そして、スポンサー制度の導入で月5000円コースや月10000円コース、10万円コースもあり、病院や喫茶店、銀行やコンビニなど23事業所が手を挙げてくれて年間約270万円の歳入があります。

市からの支出としては、ふれあいバスは1億4600万円で全体の87.6%。チョイソコは、2200万円で全体の92.2%であり、流山市のグリーンバスは、50%の支出としているので違いを感じました。

不定期だが、チョイソコ研究会会議を行政とタクシー会社、取りまとめをしている株式会社アイシンが集まり、新しい停留所の設置についてなどを話し合います。元凶についても様々なことを話し合えることはとてもいいと思いました。

流山市も大変難しいのですが、デマンドバスなども検討していますので参考にしていきたいと思います。

10／26豊田市　公共空間暫定活用とよしばについて

豊田市は、918.32㎢で令和4年4月1日現在人口418,284人の自治体であり、平成17年に6町村が合併しました。

今回の視察は、豊田市駅東口まちなか広場拠点施設運営・管理事業について勉強いたしました。

3年7ヶ月の実証実験を令和5年3月まで行いました。「とよしば」とよたまちなかラボは、年1回評価会議を行い、商工会議所、行政等で構成されています。実証実験では人材育成もテーマとしておりました。イベントのスキルをトヨシバスクールで人材を育成して実際にイベントをしています。17人の生徒が11回のイベントを実現させ、プレーヤーを育成しました。令和5年度4月からは、コワーキングスペース、大学生が窓口となり駄菓子屋、街の模型づくりをしました。TCCM（都市再生推進法人）と協議をして治安の改善を目的とした飲食事業を行い課題解決しました。サッカー教室、グランパスカラーを行い、パブリックビューイングの活用やお祭りなど集客や人流を作り出しました。

都市環境計画は平成28年3月の計画で令和2年度に見直しを行い、ウォーカブル推進都市として居心地の良いまちづくりを目指すものです。

アジア競技大会を目途に一旦の再開発を間に合わせ、大会後に最終的な完成を目指します。

ウォーカブル推進都市として国に認定され、さらに推進します。愛知工業大学との連携で建築学科の学生が参加し、目的、世代を担う学生に対して自ら発言できるプレーヤーを育成します。コワーキングスペース、自分で机や椅子を作って使ってもらい、駄菓子屋で子供や親を対象とし、集客しました。しかし、収益は伸びにくいようです。

公民連携として最初は、イベンターに３年半、導入部分を任せました。人材育成事業として、市は場所貸しだけ行い、その後はTCCMが事業を行います。管理も将来的にはTCCMが担います。導入部でのイベンターとTCCMとの連携が理想です。行政がイベントをするのではなく民間の方が集客できる賑わ

いの創出ができ、魅力が生まれます。集客人数としては、令和4年度はうどん屋だけで2万人、アトリエ、施設で年間5千人、広場で2万人集客ができました。
　その中で課題は、市外のイケアやららぽーとといった大型店舗に集客が流れていることです。
ウォーカブルなまちづくりについて市民の声を集約した中の１つの声として、東西の軸をまずは歩きやすくすることが挙げられます。
SOGOから松坂屋が入り、そこも閉めてしまって今回の再開発となりました。
　流山市としても南流山や江戸川台駅前など再開発の必要性の声により動いていますが、様々な進め方があることを今回の豊田市の「公共空間暫定活用とよしば」で学ばせていただきました。

交通死亡事故ゼロの実現に向けた「ジコゼロ大作戦」
　豊田市は、高齢ドライバー問題でドライブレコーダーから運転者の癖を自分で把握してもらう事業に携わっています。
高齢者安全運転サポートプログラム「ドラみる」アプリで自身の運転をAIで判断するのだが専用のドラレコをつけなくてはならない。
　そのほか、止まってくれてありがとう運動を推進している。
スマートポール「ピカっとわたるくん」1セット2本で500万円（周辺整備も含む）かかり、通学路の横断歩道にLEDの点滅と横断歩道などの電光掲示板で運転手に知らせます。そのほか、5差路に車や自転車等、何がどこから来るのかを知らせる表示機器を設置し、キックオフイベントでスタートしました。
ヒヤリハットデータベースを設置することで、1.5秒以内をヒヤリハットとし、設置後には事故が18.9％減少したようです。
ITS自転車の協力企業が蓄積しているプローブデータを活用し、企業が持っている車のレコーダーのデータを集約しました。自転車で行動範囲も広がることから、小学校4年生を調査の対象としました。プローブデータの活用においては未公表

で、トヨタ車からのデータでは、急ブレーキほど赤い矢印となるなど道路表示以外の注意喚起の研究でナビの中での注意喚起などが考えられます。
　千葉県も交通事故の多い県であり、「止まってくれてありがとう運動」など、すぐにできる活動を流山市でも推進していきたいと思いました。

10／27岐阜市
リノベーションまちづくり
・岐阜の風物詩が川幅いっぱいに鮎を浅瀬に追い込む鵜飼の世界で、岐阜市人口約40万人名古屋のベッドタウンです。住みたい街ランキング1位で、自然や清流長良川、岐阜城があり、岐阜信長祭では、伊藤英明、木村拓哉が出演し、大盛況でした。62万人都市、戦国時代城下町、昭和繁華街の街です。駅周辺開発岐阜駅周辺からつかさのまちエリア民間活力、10年先の緩やかな柳ヶ瀬エリア商店の場岐阜公園エリア、歴史を感じるエリア、リノベーションまちづくりを民間が主体となってプロジェクトを興し、行政が支援します。大規模小売り店舗の立地が多いことも特徴です。
昭和50年は通るのが大変なくらいの人手でしたが、平成10年は、シャッター街となりました。中心市街地活性化基本計画は4期目であり、令和5年4月から令和10年3月までの期間となります。
　きっかけとして、岐阜市が家賃の一部を補助し、空き店舗、商店街活性化プロデューサー、クリエイターによる出店など若手役員、柳ヶ瀬再生のための商業活性化アドバイザー等、新規店舗が稼げる提案しております。20代から40代の女性が好む出店50店舗、毎月3日間開催しております。平成26年度からまちづくり会社エリアマネージメント柳ヶ瀬の地域商店主が株式会社を設立し、都市再生推進法人として市が認定しました。
　ロイヤル40（よんまる）は平成29年から、創業希望者を創出しており、まちづくりにおける点で国土交通省において表

彰されました。マルイチビルを令和元年から柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社です。
リノベーションまちづくり推進拠点（やながせRテラス）管理運営は、（一財）岐阜市にぎわいまちです。
　まちづくりの担い手育成（行政の取り組み）リノベーションスクールは、令和元年から令和３年間行いました。修了生は76名です。まちに興味を持ってもらうために3日間集中講座を行い、現地視察や商店街の方との意見交換などを行い、3日目に公開プレゼンテーションをします。シンポジウム担い手育成（民間の取り組み）を行いました。
　柳ヶ瀬日常ニナーレ令和4年度から第2回開催期間11月19日から12月31日370名の参加者のうち340名からのアンケート回答では、3割がこれからも参加したいとの回答でした。オープンスペースラボの活用では、金公園に岐阜市主催子育て支援施設が隣接されました。150店舗の新規出店があり、8割がまちづくりに関わりを持っているようです。柳ヶ瀬エリアへの期待感を持って出店しています。
　今回のまちづくり推進課の模範としているのは東京都豊島区のリノベリングのアドバイザーで青木純さんだそうです。流山市も再開発での参考にしたいと思います。

視　察　報　告　書

報告者氏名　野村　誠

1　委員会名

都市建設委員会

2　期　　日

令和５年１０月２５日（水）～１０月２７日（金）２泊３日

3　視察地及び調査事項

（１）岐阜県各務原市（１日目）

コミュニティバス等運行事業（チョイソコかかみがはら）

（２）愛知県豊田市（２日目）

公共空間の暫定活用「とよしば」

交通死亡事故ゼロの実現に向けた「ジコゼロ大作戦」

（３）岐阜県岐阜市（３日目）

リノベーションまちづくり事業

4　所感等

（１）初日は岐阜県各務原市のコミュニティバス等運行事業（チョイソコかかみがはら）について視察を行った。市の特徴として、市域中央に立地する航空自衛隊岐阜基地を中心に航空機産業等の製造業が盛んで、製造品出荷額等が岐阜県下でナンバーワンのものづくりのまちであり、航空宇宙博物館、河川環境楽園など観光施設、緑豊かな二つの都市公園を有する。新庁舎は、飛行機をモチーフにとても美しいデザインで地元の杉が大量に使用されており、また訪れてみたくなる素晴らしい庁舎であった。　人口約１４万５千人、面積８７．８１㎢のなかに東西に鉄道が走り、１６の鉄道駅があるのが特徴で、その他、民間バス１１路線、乗用タクシー５社、コミュニティバス７路線、チョイソコ３エリアの公共交通網を形成している。

交通不便地域をカバーし高齢者の足として、デマンドタクシーチョイソコかかみがはら導入の経緯については、元々は「ふれあいタクシー」事業として平成２７年～令和４年１０月まで、停留所は各エリアで計４４カ所設置、乗り方教室や実際に運行したところ、ダイヤが分かりづらいとの指摘が多く挙がり、固定客が多く、新規利用者が定着しにくいことから、課題解決のため新たに、「チョイソコかかみがはら」と言う名称で単なる交通手段だけではなく、お出かけ促進にも取り組む、２年間の実証運行を令和２年１０月より開始した。サービス内容は基本一乗車４００円（高齢者半額）事前会員登録制（市民以外も可）で電話またはウェブ発車２０分前までに予約するもので３エリア１５７の停留所が設けられている。市と民間の「アイシン」が二分の一ずつ運行負担金を支出し、そこに２３の各スポンサーが協賛金を寄付する仕組みで運行しているのが特徴である。収支率が約８％と低いのが課題。
「ふれあいバス等懇談会」を定期的に開催し、免許証返納の不安等を直接聞いたりして､それを次のダイヤ改正に反映させている。また周知活動としてフレイル予防や公共交通についての社内ポスター掲示、チョイソコ通信の発行、お出かけ促進のための交通安全セミナーや停留所近くでイベント等を開催し、お出かけ促進を促す取り組はとても参考になった。

（２）視察２日目、愛知県豊田市の公共空間暫定活用「とよしば」と交通死亡事故ゼロの実現に向けた「ジコゼロ大作戦」の２項目を視察した。
○豊田市の概要－豊田市は人口約４１万７千人、愛知県のほぼ中央に位置し、愛知県全体の１７．８％を占める広大な面積を有する市である。全国有数の製造品出荷額を誇る「クルマのまち」として知られ世界をリードするものづくりの中枢都市としての顔を持つ一方で７割を占める広大な森林を有する都市でもある。
○環境都市計画を立案し、将来イメージのデザインブックを作成し計画を進めるための「カスタマイズとよた」の８つのポイント示しいている。①未来へ繋ぐとよたらしさ－歩行者優先、次世代

交通、既存駐車場との連携した空間デザインに取り組む
②市民がつくる「カスタマイズとよた」－市民が考える都市空間
③分断された東と西を「自然」でつなぐ。④建物を開いて広場と一体的に利用する。広場に面した建物に立体的に利用できる仕掛けを設けることで双方の居心地を向上させる。⑤豊田らしい新しい次世代交通をと取り入れる。⑥日常と非日常両立させるデザインづくり。⑦産業・精神・歴史を象徴する素材の活用。⑧つかうとつくるのサイクルによる段階整備
都心地区で育ちつつある公民連携の取り組の連携を一層強化することを目的として豊田市駅東口まちなか広場「とよしば」事業を暫定的に実施－天然芝・人口芝併設の芝生広場を設置し市民の憩いの場としたことや、様々なイベント、まちなかラボを設け、賑わい創出、まちなかで育てたプレイヤーによって多様な活躍の場を提供できる環境づくりを実施した。令和５年１１月末までに運営管理した後、１２月からは、東口ロータリーの整備に向けた工事に着手するため、当該施設を閉鎖し撤去するため期限付きの暫定運用となった。しかしながら運用実験で得た様々な知見は、将来の駅前広場の機能や仕組みづくりに活かされていくとのこと。ここで得た知見については、本市の南流山駅前の再整備計画に活用していきたい。
　○豊田市の２つ目の調査事項、交通死亡事故ゼロの実現に向けた「ジコゼロ大作戦」について、背景として、交通事故死傷者数は平成２０年３０９１人をピークに大局的には減少（令和４年度１１５９人）傾向ではあるものの、昨年死者数は１２人と前年と比較して倍に増えていることから、第１１次交通安全計画（令和３年度～令和７年度）策定、令和７年度までに「交通事故死傷者数」を１０００人以下にすることを目標に掲げ、８つの視点から特に３点①高齢者及び子どもの安全確保②生活道路における安全確保③先端技術の活用促進を指針として「ジコゼロ大作戦」の推進をおこなった。主なものが、①押しボタン式横断者明示標識「新ぴかっとわたるくん」を１２基設置し、ＬＥＤライトの点滅と光る文字で停止率向上を図る。課題は、一基の設置費用が５００万円もかかるため自治体単独の予算では設置は困難と思われる。②

スマートポール実証実験については、カメラや通信機器等を搭載したポールを交差点等に設置することにより、交差点に進入する車両や歩行者等に対して電光掲示板に絵文字や矢印を標示させることで注意喚起を促すもので非常に先進的で効果も出ている一方でこちらに関しても予算の高額が課題である。

（３）岐阜県岐阜市（３日目）リノベーションまちづくり事業について視察を行った。

市の概要については、人口４０万２４００人、県の南西部、名古屋都心から３０㎞、鉄道で約２０分の距離に位置する。市の東西の鵜飼いで有名な長良川が流れ織田信長ゆかりの岐阜城がある。「リノベーションまちづくり事業」については、行政の取り組みと民間の取り組みそれぞれ過去から遡ってのまちづくりの取り組みの歴史、経緯がとても分かりやすく詳細に、担当課長から熱心に説明があった。岐阜市は郊外に大型ショッピングモールが多く建設された結果、柳ヶ瀬商店街の来客数が減り、シャッター店舗が増加、活気を失い中心商店街の空洞化が進んだ。そうした状況を打破するために、平成２２年に岐阜市商店街活性化プロデューサー事業を開始、遊休不動産に関する利活用セミナーや空き店舗ツアーを実施、平成２９年に都市再生推進法人指定（柳まち会社）令和元年には第１回リノベーションスクールを開催し３２人のそれぞれの専門家等が参加しまちづくりの担い手育成が促進された。その後岐阜市リノベーションまちづくりガイドブックを作成、岐阜市の未来まちづくり構想を策定した。更に、柳ヶ瀬日常ニナーレを開催し、日常のまちづくりの担い手の裾野拡大を推進した。一方で民間の取り組としては、平成２６年サンデービルヂングマーケットの開催、平成２９年ロイヤル４０（リノベ物件）―空き店舗の出展者誘導を実施、令和２年には、今回視察説明を聞いた場所となった、やながせＲテラス整備・運営（財団）を設立するなど公民一体的となったまちづくり事業は大変に学ぶべき点が多かった。本市に持ち帰って更に研究し活用していきたい。

以上

視　察　報　告　書

報告者氏名　　小沢えみり

１　委員会名
　　都市建設委員会

２　期　　日　令和５年１０月２５日（水）～１０月２７日（金）２泊３日

３　視察地及び調査事項
（１）岐阜県各務原市（１日目）
　　コミュニティバス等運行事業（チョイソコかかみがはら）
（２）愛知県豊田市（２日目）
　　公共空間の暫定活用「とよしば」
　　交通死亡事故ゼロの実現に向けた「ジコゼロ大作戦」
（３）岐阜県岐阜市（３日目）
　　リノベーションまちづくり事業

４　所感等

●各務原市視察

各務原市における移動支援サービス「チョイソコ」の導入に関する視察

「チョイソコ」の背景
- 介護・高齢者支援の必要性
- 地域での移動支援の役割
- デマンド型交通の重要性
- グループ送迎による効率性
- カーナビゲーション技術の活用
- 大型車両通行不可能エリアへの対応

「チョイソコ」はコミュニティバスや市営バスが通っていない地域の高齢者の足としてとても良い取り組みだなと思いましたが、タクシー業者や地域企業のスポンサーによる資金運用をしているにしても収支率がとても低く、収支率 50%以上を基準としている流山市としては導入へのハードルは高いと感じました。

●豊田市「あそべるとよたプロジェクト」視察

このプロジェクトは、名鉄豊田市駅周辺の「まちなか広場」を活用し、市民・企業・行政が協力して地域の魅力を高めるための取り組みです。
2015 年から始まったこのプロジェクトは、市民との協力により広場を有効活用し、新たなアイデアを形にする試みです。
目的は、市民にとって魅力的で使いやすい広場をつくり、地域の活動の場として確立することです。

2023 年 3 月 31 日までの実証実験で「とよしば」と名付けられ、市民のアイデアや行動を通じて、新たなプレーヤーを育て、市の発展に貢献する場所として期待されています。

名鉄豊田市駅の東口まちなか広場は、豊田市の新しい魅力を創り出す場所として整備されていて芝生広場は 560 平方メートルの広さで、豊田市の活気を再生する場所として計画されたとのことで、市民が滞在し、愛着を持つ場所を提供しています。健康増進のための活動やイベントも開催していて、市民の交流を促進していて、南流山駅前広場もこの取り組みを取り入れられたらいいと思いました。

●豊田市の交通安全ジコゼロ大作戦について

*交通安全の三要素は
”人”への啓発活動
安全な ”車” の開発
”交通環境” の整備

具体的な取り組みとしては、
1.　ITS スマートポール（SP）
　- 衝突危険検知と注意喚起
　- 出会い頭事故対策
2. 住民ヒヤリハットデータベース
　- 危険箇所情報の収集
　- 危険度算定と対策の優先順位付け
3. 高齢者安全運転診断アプリ
　- ドライブレコーダーデータの活用
　- 高齢者の安全運転支援

4. 車両プローブデータの活用
  - プローブデータと事故データの組み合わせ
  - 効果的な対策の実施
5.押しボタン式横断者明示標識（ぴかっとわたるくん）
  歩行者の存在・横断する意志を確実に認知できる

流山市でも導入できたら良いと思うものもありましたが、スマートポールも一つの横断歩道に費用が500万円かかるなど、費用が高いので相応の予算と資金調達が必要となります。

視覚的に横断歩道を赤くしたり、看板をたくさん立てたりするのも良いとは思いますが、増えてくると、逆に運転手があまり気にしなくなってしまう可能性もあるため、スマートポールの向運転手通知機能の仕組みを活用して、TOYOTAさんがリアルタイムで接近する車の情報を運転手に伝える機能を搭載できるようになるのが理想だと思いました。

● 岐阜市の「リノベーションまちづくり」についての視察

「リノベーションまちづくり」は、岐阜市で空き家や空きビル、公共の空間を活用し、地域資源を結集して、まちの活性化と課題解決を図る取り組みです。岐阜市にぎわいまち公社により、2020年に柳ケ瀬のロイヤル劇場ビルに「まちなか活性化活動拠点施設」が設置され、2020年9月には「リノベーションまちづくり推進拠点　やながせRテラス」がオープンしました。

〇やながせRテラスの役割
「やながせRテラス」は、柳ケ瀬のロイヤル劇場ビル内に位置する「リノベーションまちづくり」の拠点として、複数の役割を果たしており、まちの魅力を高め、エリア全体にその魅力を広めることを目指して以下の活動を行っています。

1. ショッピングと交流の場
柳ケ瀬でのお買い物の休憩スペースとして、まちで働く人々の打ち合わせや作業の場として、セミナーやワークショップの開催拠点として、多くの利用者が集まる場所。

2. 若い世代の参加
柳ケ瀬では若い世代の方々が積極的にまちづくりに参加し、出店やイベントなどを通じてまちの活力を高めています。やながせRテラスはこれらの若い担い手と交流の場を提供して、まちの魅力を共に発展させる役割を果たしています。

3．サンデービルヂングマーケット
柳ケ瀬で毎月第3日曜日に開催される「SUNDAY BUILDING MARKET」は、地域内外から約5000人が集まる大規模なイベントで、まちを賑わせています。若い店主の出店やまちの新旧のお店を紹介し、まちづくりに積極的に取り組んでいます。

4．「サンビル」への移行
「ハロやな」から「SUNDAY BUILDING MARKET」への移行は、まちへの新しい貢献を追求する一環でした。月1回のマーケットが、単なる賑わいではなく、まちのお客様やまちファンを育てる重要な役割を果たしています。

〇柳ケ瀬のまちづくりでは「ミユキデザイン」を含む多くの関係者が連携し、複数のリノベーション事業を進行しています。シェアオフィスやシェアアトリエを通じて、クリエイターやデザイナーが新たなビジネスチャンスを見つけられるような取り組みもありました。

岐阜市柳ケ瀬の「リノベーションまちづくり」プロジェクトは、まちの再活性化と若い担い手の育成を通じて、地域全体の成長に貢献していてとても素敵だと思いました。若い世代を引き込み、運営メンバーを継続的に交代させることで、柔軟で進化するまちづくりを進めているとのことでした。
成功させるにはやる気のある市職員と市民が一丸となって進めていくのが良いともおっしゃっていて、流山市もぜひNまちデザインさんを筆頭に流山らしいまちづくりをしていけたらいいなと感じました。
また、商店街には昭和な雰囲気がものすごくたくさん残っていて、タイムスリップしたかのような場所もありました。
流山でいうと本町で古き良きところをもっと引き出していけたらいいと思います。

視　察　報　告　書

報告者氏名　清水　大

１　委員会名
　都市建設委員会

２　期　　日
　令和５年１０月２５日（水）～１０月２７日（金）２泊３日

３　視察地及び調査事項
（１）岐阜県各務原市（１日目）
　コミュニティバス等運行事業（チョイソコかかみがはら）
（２）愛知県豊田市（２日目）
　公共空間の暫定活用「とよしば」
　交通死亡事故ゼロの実現に向けた「ジコゼロ大作戦」
（３）岐阜県岐阜市（３日目）
　リノベーションまちづくり事業

４　所感等
（１）岐阜県各務原市　「チョイソコ」という親しみやすいネーミングから使い勝手の良さが連想される。ネーミングも重要な要素と考える。市としては収益よりも住民の利便性にフォーカスしており、費用として市の持ち出しが２，２００万円もあるとのことで採算は取れていない。採算は取れないながらも、市の負担を軽減で出来るような取り組みをしっかりと行っている。地元企業に協賛を募り、見返りとして協力企業の所在地に停留所を設置。また停留所は、A４程度のラミレートしたものを目立つところに掲示しておくだけというローコストを徹底している。地元公共交通機関、タクシー会社、市と三社での協議を綿密に行ったようで、タクシー会社側の稼ぎが少ない時間帯に「チョイソコ」を走らせるという運営をしており、住民とタクシー会社の双方が WINWIN

となる体制が取れている点は非常に参考になる。

（２）愛知県豊田市　豊田市も他の地方都市と同様ドーナツ化現象により、駅周辺の空洞化が顕著であることは駅前の人通りを見ると非常によくわかる。人口的には柏市と同規模程度であるが駅前の賑わいは及ばないように感じた。その柏市ともう一つ類似する点は百貨店そごうが撤退していること。この撤退により駅周辺の空洞化が加速した模様。市職員から駅前の活性化を図りたいという強い思いを感じた。都心環境計画を策定し、「あそべるとよたプロジェクト」を始動。駅前の「まちなか広場」を活用して様々な実証実験を行っている。飲食販売と活用コーディネーターの発掘により活路を見出そうとしている。今後は本格的な実証実験をさらに実施した上で駅前の整備を開始していくようである。気になった点は旧そごうの建物の活用が不透明なこと。また駅前に以前からある商店や企業との会話や連携に少し課題があると感じた。

日本経済を牽引するトヨタ自動車のお膝元だけあって、交通事故に対する対策は最先端を行くものだと感じた。トヨタ自動車と共同で様々な実証実験を行っている。スマートポールは非常に有効な取り組みで、見通しの悪い交差点に設置することで出合い頭の事故を未然に防ぐことができる。これに後述するヒヤリハットデータベースを活用することで、市内の交通安全性が更にブラッシュアップされると思われる。そのヒヤリハットデータベースであるが、平成２６年、令和元年に市内の小学４年生とその保護者を対象に身近な危険個所（ヒヤリハット地点）の調査を実施。それをデータ化し、令和４年度からシステムとして本格運用している。このような危険個所の情報を関係者が共有することはとても大切なことで、その地点一か所ずつ対策を講じていくことで事故件数低減に確実に繋がると感じた。また、歩行者の交通事故抑止を目的に「ぴかっとわたる君」を設置。通学路の横断歩道などに設置したことで、自動車の停止率が向上しているとのこと。

　こういった様々な取り組みをすることで令和７年度までに交通事故死傷者数を１，０００人以下にすることを目標に掲げている。本市も取り入れたい内容であるが、これらの取り組みはそれなりにコストがかかる。本市で取り入れるにはどうやったら低予算で同等の機能を保持できるかを慎重に検討する必要がある。

（３）岐阜県岐阜市　　柳ケ瀬商店街に行き、空き不動産を活用したリノベーション街づくりを視察。商店街全体が昭和レトロの雰囲気に包まれており、とても懐かしい感じがする。岐阜市自体が名古屋市のベットタウン的な側面を持つため、若いファミリー層が多く居住している。そこを狙ったマーケティングで街づくりを推進している。

岐阜市が外部講師を招き、リノベーションスクールを開講。スクールの卒業生を中心に街に新しい店舗やシェアハウス、ギャラリーなどがオープン。買い物するだけの機能ではなく、住む・遊ぶといった機能も重視して、遊休不動産をうまく活用している。昭和レトロな街の中に今どきのおしゃれなカフェやギャラリーがあるそのギャップは、遊びに来る人をワクワクさせる。リノベーションスクールの効果として、卒業生中心になって街づくりに関わっていく人が増えており、一種のコミュニティのようになっていると感じた。その繋がりが大きくなればなるほど、街に活気が生まれる。その活気を垣間見た気がした。

また市長のコミットも大きく、まさに官民一体となって行われている事業である。岐阜市は市内に他の観光資源も多い為、更にうまく連動させれば、素晴らしい地域資源となりうると思う。本市も本町の街づくりにおいて大いに参考にしたい。

視　察　報　告　書

報告者氏名　高橋あきら

１　委員会名
　都市建設委員会

２　期　　日
　令和５年１０月２５日（水）～１０月２７日（金）２泊３日

３　視察地及び調査事項
（１）岐阜県各務原市（１日目）
　コミュニティバス等運行事業（チョイソコかかみがはら）
（２）愛知県豊田市（２日目）
　公共空間の暫定活用「とよしば」
　交通死亡事故ゼロの実現に向けた「ジコゼロ大作戦」
（３）岐阜県岐阜市（３日目）
　リノベーションまちづくり事業

４　所感等
（１）岐阜県各務原市（１日目）
・コミュニティバス等運行事業（チョイソコかかみがはら）
【概要】
　岐阜県各務原市(かかみがはらし)と中々読めない市です。面積も 87.81 ㎢と流山市(35.32 ㎢)と比べると 2.5 倍の大きさで、人口も 14.5 万人です。市内の真ん中に航空自衛隊があり、視察中も自衛隊機が離着して、騒音や墜落事故の心配がないのかと不安です。
　市内交通は東西に鉄道(JR・名鉄)が走り 16 の駅があり、民間バスも 11 路線運行し、公共交通が発達しています。その他に、ふれあいバス 7 路線、チョイソコタクシー3 エリアが補っています。

ふれあいバスは2000年から改正を重ねて市内7路線、1乗車100円と格安で乗車できるのが羨ましい。やはり100円と定額にするのが公共交通の基本であり、流山市のぐりーんバスの運賃値上げをするのは、住民サービスに逆行しています。

改正内容も、運行に2時間の路線をコンパクトな路線や、利用者の少ない便の廃止・再配置、運行ダイヤの調整、居住を誘導すべき区域への車両の追加等々、利用し易いように改善されています。

デマンドタクシーの検討も工夫を重ねています。ふれあいタクシー（2000年～2022年）として1時間に1便程度の運行、1乗車300円(高齢者等は半額)、予約30分前まで可能、と運行されました。が、ダイヤが分かりづらい、固定客が多い等、課題解決してチョイソコかかみがはら(2022～)ふれあいタクシーへと課題解決に向けて実証運行を開始しています。1乗車400円また600円(高齢者等は半額)20分前までに予約として、トヨタ系㈱アイシンのＡＩを取り入れているのも斬新です。やはり、ワンコインで利用できるのも大きな魅力です。

取り組みの中で大切にしていることは、住民との対話を重視していることです。毎年11会場で12回開催して改正内容の説明や公共交通に対する意見や要望を聞き、次の改正に反映・議会報告し常に進化させていることに、当市でも大いに学ばなければいけないことです。

また、予算も2.7億円を組んで、ふれあいバス・タクシーの事業費を計上し、当市のぐりーんバス1億円の予算の倍以上となっています。利用促進の取り組みも、運転免許自主返納事業として3000円を渡しています。

また、公共交通マップ(A4×36頁)、乗合送迎サービスパンフレットの作成とキメ細かな対応と一目で分かるような工夫・周知をしていることにも関心しました。

【感想】

当市での公共交通を考える上で大変参考になる取り組みを視察することができました。今、ぐりーんバスが不通の地域のデマン

ドタクシーの検討が行われていますが、行政主導でしっかりと対応して行くべきと考えます。

“行きたいときに、行きたいところへ”と、外出を応援する移動手段の制度設計が求められています。これから高齢化が益々進む中で喫緊の課題となっています。

【その他】

その他、気になった点で「予算の概要」のパンフレットがあるのですが、新規・継続事業が一目で理解でき、分かる内容になっていました。今年は何をやっていくのかが分かるメッセージを伝えています。「市議会だより」も参考資料として頂きましたが、一般質問の内容は記載されているのですが、誰が質問したのかが不明な点が疑問でした。

（２）愛知県豊田市（２日目）

トヨタと言えば「クルマのまち」、人口 41.7 万人、面積 918.32 ㎢（愛知県の 17.8％、H17:6 町村合併）、7 割が森林、11.2 万人中 9.9 万人が自動車関連事業に携わっている。議員定数 45。

・公共空間の暫定活用「とよしば」

【概要】

豊田市は 2016 年に「都心環境計画」を策定・公表し、にぎわいの創出を行い公共空間の活用・再整備を進めています。統一したデザインで市民と一緒に考え、まちの使い方・あり方に関して市民ワークショップ等を通して、市民の意識共有を図りながら検討を進めています。

豊田市駅周辺を中心に商業・公共空間・交通機能を整理し、駅舎やデッキ、まちなか広場を重点的に展開する考えです。

進め方として、「都心を育てる会」の市民・商業者・市民団体の構成で、市民ワークショップの合意形成を図り、推進会議（地域経済代表、再開発法人、商業・事業者 等々）で確認・同意を形成します。

駅前広場として「とよしば」の運用が 3 年半の実証実験で令和

5年3月に終了し、新たなまちなか広場としてオープンしています。この間の取り組みとして、企画数が令和元年38回から令和4年136回をコロナ禍の中でも魅力的な企画やイベントを開催してきました。

駅前の現状として、周辺自治体への大規模商業施設の立地計画が活発化、駅前への来訪頻度の低下、「にぎわい」に関して問題が懸念されています。そのような中での「都市環境計画」の策定と都心の活用・再整備が図られています。そのコンセプトはウォーカブルな都市空間・歩きたくなるようなイメージのまちづくりの実現をめざしています。豊田スタジアムと豊田市駅と畏森公園を結ぶ壮大な構想になります。

【感想】
「とよしば」による広場機能の実証実験を経て、民間主導による空間活用を促進し、ウォーカブルな公共空間の創出の整備がどのように展開していくのか、興味があります。

・交通死亡事故ゼロの実現に向けた「ジコゼロ大作戦」
【概要】
豊田市の交通事故発生状況は、2008年3,091人をピークに2022年は1,159人（死者12人、重傷者19人、軽症者1,128）と減少傾向。しかし、県内比較では死亡事故県内ワースト上位を占めています。そこで、令和3年度から令和7年度に死傷者1,000人以内のジコゼロ大作戦を開始しました。

「ジコゼロ大作戦」はトヨタ自動車・トヨタモビリティ基金による交通安全対策によるものです。その例として、①スマートポール実証実験は、交差点にセンサーを設置して電光掲示板に絵文字や矢印を表示して注意喚起するものです。②ヒヤリハットデータベースは、収集した身近な危険箇所(75小学校7,600人参加、3,012地点)の調査結果をデータベース化しヒヤリハットマップを公開することで安全対策に活用するものです。③高齢者安全運転サポートプログラムは、自分の運転を映像で振りかえることができ、違反についてもアドバイスを受けられ点数化されるプログ

ラムです。④押しボタン式横断者明示標識（ぴかっとわたるくん）は、LED点滅でドライバーに知らせる標識12基（設置費用500万円）を設置するものです。

【感想】

トヨタ自動車の協力もあってAIを利用して実証実験を行うことは大変貴重な試みです。特に、高齢者安全運転サポートプログラムは、早期に実現して普及してほしい課題です。しっかりとした予算があれば安全運転をサポートすることが可能になり、将来は「ジコゼロ」も夢ではないのではないでしょうか。

（３）岐阜県岐阜市（３日目）

人口40.9万人、面積203.6㎢、鵜飼で有名な長良川、織田信長ゆかりの岐阜城、議員定数38名

・リノベーションまちづくり事業

【概要】

郊外の大規模商業施設に市民の足が向かい、昔の商店街のシャッター通りとなる中での、リノベーションのまちづくり事業が展開されています。美川憲一の“柳ヶ瀬ブルース”で有名な柳瀬商店街の取り組みについてです。

2010年に岐阜市商店街活性化プロデューサー事業が始まり、2014年にサンデービルヂングマーケットが開催され、2016年に柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社が設立されました。翌年ロイヤル40(リノベ物件)を空き店舗の出店に誘導しました。

行政の取り組みとして、都市再生推進法人指定(柳まち会社)、リノベーションまちづくりシンポジウムを開催しました。

第1回リノベーションスクールを開催(R1～R3)し、まちづくりの担い手を育成しました。

柳ヶ瀬日常ニナーレ開催(R4)は、まちづくりの担い手の裾野拡大を狙った取り組みです。

8年間の取り組みで150店舗が、このエリアに新規出店しています。

【感想】

昭和の時代に栄えた面影を残した懐かしさを覚える商店街は、アーケードが連なっています。この地域には８つの商店会があり、意思統一するのにも苦労があるようです。耐震化について伺うとそれも大きな課題だと言っていました。大型店舗の進出規制をしっかりと対応すべきではなかったかと感じます。

これから若いパワーで、商店街の活性化へと大きく向かってほしいです。

視　察　報　告　書

報告者氏名　近藤　みほ

１　委員会名
　都市建設委員会

２　期　　日
　令和５年１０月２５日（水）～１０月２７日（金）２泊３日

３　視察地及び調査事項
（１）岐阜県各務原市（１日目）
　コミュニティバス等運行事業（チョイソコかかみがはら）
（２）愛知県豊田市（２日目）
　公共空間の暫定活用「とよしば」
　交通死亡事故ゼロの実現に向けた「ジコゼロ大作戦」
（３）岐阜県岐阜市（３日目）
　リノベーションまちづくり事業

４　所感等
（１）　コミュニティバス等運行事業（チョイソコかかみがはら）

ア　市の概要
岐阜県南部の愛知県との県境に位置し、市の面積は87.81キロ平方メートルの人口は約１４万５千人である。市内を東西に鉄道（JR・名鉄）が走り16の鉄道駅がある。市域中央に立地する航空自衛隊岐阜基地を中心に航空機産業等の製造業が集積しており、製造品出荷額が岐阜県下ナンバーワンのまちである。

イ　市内の公共交通
鉄道はJR高山本線（４駅）、名鉄各務原線・犬山線（１２駅）、

民間バスは１１路線、乗用タクシー５社、コミュニティバスとして、ふれあいバス７路線、チョイソコ３エリアを運営している。１６の鉄道駅を軸に公共交通網を形成し、生活圏ごとに地区ごとに、ふれあいバス路線やデマンドサービスを設定、路線ごとに①商業施設へ乗り入れ・接地②鉄道駅と接続することで鉄道を軸とした交通のネットワーク化を図っている。

ウ　コミュニティバスについて

１乗車１００円で市内７路線走っているふれあいバスは、市民のきめ細やかな要望を反映してきたものの、始点から終点まで２時間以上かかる路線が発生してしまったり、運行本数が限られてしまったり、トラブル発生時に全域への影響がでる、鉄道や他の公共交通事業との連携が弱いという課題が発生していた。
生活圏を意識してコンパクトな路線改正を行ったり、その後も利用者の方の意見を聞いたり、利用者数に基づきダイヤを改定してきた。

エ　デマンドタクシー

道路が狭隘でコミュニティバスが入りにくいエリアには1時間1便程度の仮想ダイヤを設定し、予約制で導入することにしたのがふれあいタクシーである。しかしダイヤが分かりにくい、固定客が多く新規利用者が定着しづらいという課題があった。そこで、もっと幅広く利用される公共交通をめざして、単なる交通手段の確保だけではなく、お出かけ促進にも取り組む目的を据えて、事前会員登録制とした上で、AIを用いた配送システムを携えたチョイソコかかみがはらを運行することになった。
予約は利用の２０分前で、スポンサー制度を導入している。
スポンサー制度という、地域の事業所等から協賛を受け付けることで、地域に支えてもらう持続可能な公共交通サービスとして事業を展開する。
運行エリア内においてスポンサーとなった事業所には、チョイソコの乗降停留所を設置することで、スポンサーが増えるほど、利用者のお出かけ先目的地が増えていく仕組みとし、地域と一体と

なった生活の足の確保に取り組むことを目指したものだが、協賛についての考え方は多様で収益率をあげる貢献までには至っていない。
このような地道な積み上げによって令和２年は計５０か所。令和４年は計７８か所、令和５年は２９か所停留所が順調に増えている。
バス年度　令和５年度：令和４年度１０月～令和５年度９月。ふれあいバス再編、ふれあいタクシー導入から利用者は減っていたが、チョイソコかかみがはらを導入してから利用者は増えている。会員は２０２０年の３３３名から２０２２年には１１２９名に増、便利になったという声もある一方で、平日だけのダイヤに対する不満の声もあるようだ。

住民との対話の機会としてふれあいバス等懇談会を毎年１１会場で年１２回チョイソコかかみがはらの利用相談会を実施し、次の改正に反映するなど、さらなる運営強化に向けて努力されている。利用促進の取り組みとして、公共交通利用のきかっけづくりとして、運転免許証自主返納支援事業と連携（交通系ＩＣカード３，０００円分（デポジット５００円含む、１人１回お渡し）している。令和５年９月３０日登録者数１１２９人中、７０代以上が８６２人（７６％）で、高齢者の足として機能することで、介護予防等、高齢者等が健康で、社会に参画しながら生活できる環境構築を目指しているとのこと

オ　事業性について
経費として、ふれあいバスについては１億４６００万円（バス７台分）、かかっている。料金は１００円一律で提供しているが、チョイソコかがみはらは市単独費は２２００万円かかっている。チョイソコかがみはらはの収支率は７．８％、ふれあいバスの収支率は１２．４％、全体収支率は１２％である。

CASEや MaaSの活用、ＡＩによる配車システムの運用とその効果について、

（株）アイシン　もともとはカーナビを扱っていた会社で、カーナビの仕組みの中にＡＩによる配車システムがある。停留所がたくさん増えれば増えるほど、配車が複雑になるものだが、スムーズな配車に向けてのシステムに貢献している。例えば、最初に予約された方が１０時に予約したとする、次に１０時以降に予約した人がいたとした場合、次の方が前回に予約したルートの上にある場合はルートに入れるし、入っていない場合は別便にするなどの制御に活用するなどである。

ＡＩを利用した配車システムは有効で公民連携の事業として有効性を感じた。また、流山市でも道路が狭隘なエリアや介護予防観点から、地域の足となるデマンドタクシーの導入が要望されているが、採算性などが課題となって導入できていない。市民の足というのは高額で運営維持が難しい。職員のご努力がにじみ出ていると感じた。

愛知県豊田市 R5.10.26

（１）　　公共空間の暫定活用「とよしば」

ア　市の概要

豊田市　人口４２万人（徐々に人口が減っている）面積は９１８．３２キロ平方メートル。合併により７割が森林(全国と同じ割合)。名古屋市からの３０分。豊田駅周辺の１９６ヘクタールの中心市街地を活性化のための事業に対する取り組みである。

郊外に大型店舗が出店して中心市街地の空洞化が進んできたため、それを打開したい、中心市街地に人が活動している風景を取り戻すため、２０１６年３月に「都心環境計画」を策定し、公共空間の活用「つかう」と再整備「つくる」を両輪に都心地区の整備の取組を進めている。

「あそべるとよたプロジェクト」におけるデッキ広場での実証実験は、豊田市駅東口の駅前広場を運営するしくみを検討するために行われている。収益事業としてはサロン事業、飲食事業が実施され、公益・広場事業としてアトリエ、ラボ機能、スタジオ機能、スクール機能が実施。

以下、公民連携のまちづくりの視点で参考になる点を記す。

イ　所感

駅については東西軸を歩きやすい空間と滞留できる空間をしつらえる。グランドレベルで店舗を外に開いてもらえるよう働きかけている。耐震補強の改修で店舗が閉まってしまっているので、交渉を名鉄と改善案を協議中である。

将来的には歩行者専用道路にして、フルモールを目指したい、ウォーカブルなまちを実現したいと行政がグランドラインとしてのありたい姿を描いているは素晴らしい。

拠点施設・広場運営事業者については、最初は３年半、イベント

実施事業に長けた事業者が担っており仕掛け作りが上手で、導入事業としては場所貸しで公共が仕掛けなくても自走している。
並行して、とよしば（ＴＯＹＯＣＢＡ ＳＣＨＯＯＬ）というプレイヤーを育てる事業を１１回実施したり、２回目の選定は、愛知工業大学野澤ゼミと連携し、建築関係の学生が中心となっているＴＣＣＭ（都市再生推進法人）という団体を選定するなど、将来を担う人材・若者に対して、柔軟な発想をもって一緒にまちづくりを学ぶ､実践する機会を与えたいという市の姿勢が表れている。
自分たちで机、いすなどを作って場所を貸す、駄菓子屋（収益事業）、子どもを、お母さんを集めて、学んでもらうという取り組みが実施された。

民間主導で実施することのメリットは､行政がやるイベントは｢○○ふれあい祭り」のようなイベントだけではなく、公共では発想できない新しい形の賑わい創出である。今までになったワクワク感を民間の発想で実現してもらいたいと役割分担をする際の根底のポリシーについても明確である。

事業の評価は、計画にある事業目的＝（ひろば活用）について精通している有識者、地元の商工会議所、評価会議を実施し、適正に評価する仕組みを整えていた。

拠点施設・広場運営事業者については、将来的にはエリアマネジメントに向けて自走していただくこと望んでいる。まずは、都市整備部と産業部のエリアマネジメントの勉強会を実施し、協議会という形にしようとしているが、５法人の足並みをそろえることに課題があるようだ。社会実験期間が終わり、いよいよ本番のまちづくりが始まる。これまでの検証結果を活かし、まちづくりの実践が行われることに敬意を表し、見守りたい。

愛知県豊田市 R5.10.26
（２）　交通死亡事故ゼロの実現に向けた「ジコゼロ大作戦」
車のまち豊田市ならでは、民間企業と連携して事故ゼロを目指す

取り組みについて視察した。以下各委員からの調査事項を中心に特記事項を記す。

質問①　高齢者安全運転診断サービス実験について、挙動を把握・分析した高齢者の方々は、どのような属性をお持ちなのか。豊田市は「サポートカー限定免許」という制度を運用されているが、その施策との連携行っているのか。行っているとすれば詳細を教えてください。
（回答）長く運転を楽しんでもらうためのツール。自宅範囲５ｋｍでよく走るところでの危険行動検知を内省するためのもの。３０００人を目標に掲げているのですが、参加者が減っているのが現状。参加された６割を超える方が役に立つ、５割の方が満足と回答している。実際、自分では一時停止しているつもりだったが、止まれてなかった実態に気づくことができた。
今後の課題については、出来ないことを指摘することも重要だが、できていることを伝えることも重要。自分の運転は大丈夫かな？と心配に思っている方が受講されると効果が高い。交通安全指導を前向きにやっている地区の方々に参加していただいている。

質問②ヒヤリハットデータベースからどのような傾向が読み取れたのか。車交通と歩行者の密度が高くなると、そもそもヒヤリハットの確率も高くなるためすみ分けも重要になる中で、まちづくりにどう活かしているのか。
（回答）ヒヤリハットの場所はタブレットから入力してもらった。結果的に６０００か所のデータ収集が行えた。交通安全講習に来ていただいている、自転車を乗り始め外出範囲が広くなる、タブレット入力慣れている小学校４年に協力してらった。公園や交流館付近、ショッピングセンター、７７地点は先行して対策が実施できそうである。今後のまちづくりに対しては、簡易型のスマートポール設置、ＩＴＳ自動車、ＩＴＳ自転車のデータ取得に役立てたい。

質問③　ぴかっとわたるくんの設置について、五差路については、

危険なので信号機を設置するという方がよいのでは？
（回答）信号機はもちろん増やしていきたく、警察に押しボタン信号を要望するが、無理だった場合の代替案として活用している。生活道路で通学路になっている所とか、公共施設の周りに設置していくことが効果的だと考えている。

質問④　ぴかっとわたるくんの設置費用は？
（回答）周辺整備、設置を含めて５００万。５年ほどはノーメンテナンスで稼働が可能。バッテリーは定期的に交換が必要。

岐阜県岐阜市 R5.10.27
（１）リノベーションまちづくり

ア　市の概要
名古屋市の衛星都市・ベッドタウン的な性格を持つ一方で、岐阜県の行政・商業・情報の拠点として機能している。人口３９万人、面積２０３．６０キロメートル。

リノベーションまちづくりは、今ある資産を活かし、新しい使い方でエリアの価値を高めていく手法。民間主導でプロジェクトをおこし、行政が支援するという役割分担を徹底する。岐阜市郊外に郊外型の大型ショッピングモールが多く建設された結果、商店街の来客が減ってしまい（数値）シャッター商店が増えたことから、このエリア再生を狙うもの。
以下、各議員からの質疑事項から特記事項を記す。

イ　歴史的経緯
平成２２年、岐阜市商店街活性化プロデューサーを全国から募集し雇うことにした。遊休不動産対策として空き店舗活用に向けて補助金を出しているが、店舗は開設されるものの補助機関が終了すると撤退してしまうのが課題となっていた。
平成２４年、賑町（にぎわいまち）校舎とプロデューサーがコラボして、短期間で　まちづくりのプレイヤーが集まり始めた
平成２５年　やながせまちづくり再生を目指し、にぎわいまち公社を組織化することに。まずはマーケットしていくことにした。商業活性化アドバイザーを設置する。
平成２６年　サンデービルヂングマーケット　毎月日曜日定期市を開催。
てづくり市、主催者と出展者が１５０店舗まで拡大。やながせにこれまで来街することが無かった、若い人、女性が多く集うことになったに。

まちづくり会社として、やながせの商店主・地域住民と一体となって、土地・エリアの価値を高めて、次世代にまちをひきつぐことを目的とした、柳ケ瀬をたのしいまちにする株式会社が設立。「サンデービルヂング」というプロジェクトを立ち上げるが、地元の商店街の方々を関わらすことができないことが課題であったため、裾野を広げたのが、柳ケ瀬日常ニナーレ。

ウ　事前の調査に基づく質疑に対する回答

質問①　リノベーションスクールの概要

（回答）リノベーションスクールは、不動産やイベントの事業提案をスクール形式で創出する仕組み。１チームを８名で構成し、２泊３日、講師の方の助言をいただいてブラッシュアップして、公開プレゼン。岐阜市のリノベーションスクール、Youtubeで発信している。

第１回：３２人が応募で選抜。業種は建築、設計、不動産。クリエイター、コピーライター、カメラマン、金融、市議会議員、公務員、学生が参加。不動産オーナーが活用に悩んでいる４物件を対象に、その活用方法、事業提案を実施。

第２回：１８名　２物件を対象、第３回２０名が参加、２物件を対象。

空き店舗補助として、現在も補助を継続しているが、補助がなくなった時に退店する店が多いのも課題。

事業開始時に、いきなり店舗を借りるとなると家賃がおもく事業を軌道に乗せることが難しいため、サンデービルヂングマーケットでテストマーケティングしたり、小割した店舗に入ったうえで、事業を段階的に拡大してもらう仕組みづくりにしている。お客さんをとりあうのではなく、共有し、お互い尊重しあって一緒に成長できる仕組みを作る、そのきっかけとなっているのがリノベーションスクールである。

質問②このリノベーションスクールを強力に推進できている理由

（回答）市長を巻き込んでいることである。ボトムアップだと中々

大成するのが難しいが、市長発信することで、柳ケ瀬を大きくアピールできる。

質問③他市からの交流人口について
（回答）いずれビルに入っていただく事業者を育てるために、第３日曜日　サンデービルヂングというマーケットを２６年９月から始めている。最初は５０店舗の出店だが、現在は２５０～３００店舗に成長。ＳＮＳなどでの発信に工夫し他所、出店店舗が多くなった。やながせまち会社が、まちにあったコンセプトにあったお店を絞って選定している。３０００人から５０００人の集客。偶数月第一日曜日の規模縮小版を実施。

質問④2014年から2021年実施した結果、約150店舗が生まれたとのこと。リノベーションまちづくりを継続するためには、その効果を住民にもわかっていただく必要があると思いますが、どのような指標を設定していますか。
（回答）３期目の中心市街地活性化基本計画、リノベーションまちづくりを基本方針に位置付け、行政としても力をいれていることを明示、シンポジウム、講演会の実施、これまでの取り組み成果をまとめた銀色のガイドブックを作成し、効果の見える化と周知を行っている。
まちの活性化に向けて以前は、イベントで人を集客していたが、一過性であり日常の交流人口、定住人口は増えない。そこで商店街活性化プロデューサーを雇用し、全国各地の事例をまとめた上で、イベント的にマーケット（サンデービルヂング）に出店、担い手がお得意さんをつくり事業者に成長できる仕組みづくりを実施。やながせまちづくりが店舗を先付で借りた上で、身の丈に合った区画割を出店者の色に合わせて整備、出店をサポートしている。こだわりが強い出店側は、自分たちの想いに沿ったお店をつくることを長続きする。

質問⑤不動産オーナー勉強会から開催されたとのことですが、どのような内容ですか。

（回答）建て替えの機運があるときに、付加価値に向けた取り組みについて、他自治体の成功事例を、平成２６年度、平成２７年度、それぞれ、３、４回実施。

質問⑥リノベーションまちづくりを運営するための収支について教えてください。
（回答）リノベーションスクールの開催費用　２～３０００万円、１／２地方創生交付金。令和５年度　デジタル田園都市交付金を充当している。

質問⑦「場が持つストーリーを活かす」ことを大切にされているようですが、どのように発掘し、活かしているのでしょうか。地域資源の発掘が大変重要になると思いますが、行政としてどのような工夫をされていますか。公民連携事業において、行政だからこそできる役割について教えてください。
（回答）やながせのまちを、面白いと思っている視点で発掘してもらう、地元金融機関の民都機構　清流まちづくりファンドを創設。地域資源としては、７０年続いてきたサロン・ド・マルイチを発掘し、当該ファンドを活用する際の民間主導まちづくりの支援をしている。
リノベーションまちづくりは人づくり事業である。いろんなステージでひとが活躍できることを行政は支援している。柳ケ瀬日常ニナーレは、自分が講師として参加できる、まちに関わってもらう仕掛けだが、企画される方が増やすよう支援している。まちづくりを主導するリーダーをつくりたい。一人でもリーダーになれる、つながることによってチームをつくることができる、人づくりを進めていきたい。

質問⑧　道路に関する有効事例があれば、教えてください。
（回答）柳ケ瀬パークライン、金川橋通りの４車線のうち２車線をくつろげる空間としてトランジットモールをつくり車中心から人中心にというコンセプトで社会実験した。道路を公園のような

空間に使用としている。自動運転は５年目、レベル４を目指して、無人バスを走らせている。
再開発できた小金公園を芝生化し、道路空間を車から人へを模索している。

質問⑨　民間がまちづくりに参加したいときの相談先はどこか
（回答）建築部局。公共事業の部署と空き家対策の部局。岐阜市、商店街の方や、外郭団体であれば、岐阜市まちづくり財団。一般的に行政に話すのはハードル高いため、財団という外郭団体がいることによって相談しやすい。行政は人事異動で担当が変わっていくが、財団は変わらない。行政、外郭団体、民間が三位一体となって動いている

質問⑩参考にした事例はあるのか？
（回答）八戸市。コーディネーターの事例を聞いた。岐阜市で連携している模範にしている連携してやっている所は。東京の豊島区、リノベリングという会社の青木純氏。